

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

- 支部学術大会 ..... 223
- Interview : 小川隆広教授 (UCLA) ..... 227

## 支部学術大会報告

### ●九州支部学術大会

平成 23 年 11 月 6 日 (日), 長崎県歯科医師会館にて, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野村田比呂司大会長のもと, 平成 23 年度九州支部学術大会が開催されました。プログラムは昨年度の支部会に引き続き講演を中心に構成され, 朝一番には九州支部所属の 3 名の准教授による最新の臨床的研究と基礎的研究が熱く語られました。特別講演 1 では鹿児島大学の長岡英一教授から自身の御経験から若手への熱いメッセージが送られ, 特別講演 2 では現学会理事長である古谷野潔教授から咬合理論と補綴臨床について, Science の部分と Art の部分について分かりやすいお話をいただきました。教育講演は遠く北海道から札幌西門山病院

の藤本篤士先生にお越しいただき, 「要介護高齢者や摂食嚥下障害患者に対する義歯治療」と題したテンポ良いお話で会場内は大いに盛り上がりました。さらにランチオンセミナーも企画され, 一般ポスター演題は 26 題, 専門医申請ケースプレゼンテーションは 6 題の応募があり, きわめて充実した内容で実施されました。夕方の生涯学習公開セミナーは「高い予知性を見据えた補綴前処置の実践」というテーマで九州内外の 3 名の臨床家からそれぞれ違った角度から補綴前処置について豊富な臨床経験に基づいた興味深いお話を伺うことができました。11 月にも関わらず総計 340 名の参加者の熱気でクーラーを入れるほどの熱い大会になりました。

(長崎大 西村正宏)



朝から満員の講演会場



教育講演での熱いディスカッション

### ●東京支部学術大会

平成23年11月26日(日)に東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂にて、東京医科歯科大学大学院全部床義歯補綴学分野教授水口俊介大会長のもと、平成23年度社団法人日本補綴歯科学会東京支部総会・第15回学術大会が開催されました。一般口演10演題、専門医申請ケースプレゼンテーション2演題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

また特別講演として、東京医科歯科大学臨床教授藤本補綴研修会主宰藤本順平先生をお迎えして「Anterior Guidanceの臨床」と題した講演をしていただきました。

さらに、生涯学習公開セミナーとして、大阪SJCDベーシックコースディレクター・大阪府開業小林守先生と東京医科歯科大学非常勤講師・東京都開業高橋登先生のお二人による「審美修復治療へのアプローチ」というテーマの講演がありました。

また総会では前年度の優秀発表に対する表彰も行われました。

これに先立ち平成23年10月16日(日)には東京医科歯科大学において、日本補綴歯科学会東京支部後援

で、座長の東京医科歯科大学大学院部分床義歯補綴学分野教授五十嵐順正先生、日本落語協会顧問三遊亭金馬師匠、東京医科歯科大学大学院部分床義歯補綴学分野准教授若林則幸先生の3名により「東京医科歯科大学に40年通った噺家が語る歯の苦勞と食べる楽しみ」という題名で市民フォーラムも開催しました。

短い時間ではありましたが充実した内容で、また参加者同士の交流を深める場として非常に有意義な大会となりました。(医歯大 内田達郎)



総会での五十嵐支部長



特別講演の藤本先生と水口大会長

### ●西関東支部学術大会

平成24年1月8日(日)神奈川県歯科保健センターおよび神奈川県歯科医師会館にて、鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座森戸光彦教授を大会長として、平成23年度(社)日本補綴歯科学会西関東支部総会ならびに学術大会が開催されました。また同時に、神奈川県歯科医師会第10回学術大会も併催されました。

一般口演9題、ポスター発表9題、専門医申請ケースプレゼンテーション2題に加え、生涯学習公開セミナーおよび特別講演の講演がありました。生涯学習公開セミナーでは、北海道医療大学の平井敏博先生による「咬合・咀嚼の健康へ果たす役割—咀嚼は高次脳機能を賦活するか?—」の講演がありました。また、浜松市リハビリテーション病院の藤島一郎先生による「嚥下障害過去・現在・未来」の講演がありました。

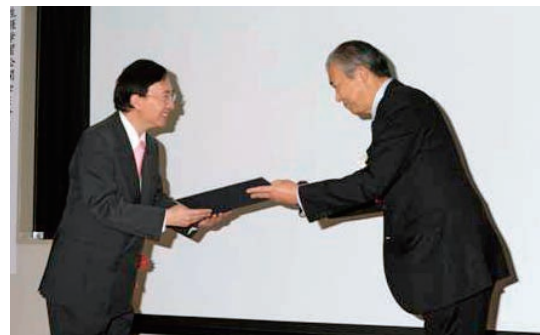
平成23年度より西関東支部では、35歳以下の若手発表者から一般口演およびポスター発表の上位各1名をイーストレーキ賞として表彰することとなりました。本年度は、一般口演にて「透過法による咬合接触評価の検討」を発表した笠間慎太郎先生(鶴見大学歯学部)、「高齢者における咀嚼効率と混合能力の検討」をポスター発表した奥野典子先生(鶴見大学歯学部)が受賞しました。

総会では、高橋紀樹神奈川県歯科医師会会長、森戸光彦大会長、退任された9名の役員に対する感謝状が贈

呈されました。当日は234名が学術大会に参加し、ほとんどすべての講演で立ち見が出るなど大変盛況でした。(鶴見大 諸熊正和)



大久保力廣支部長から高橋紀樹神奈川県歯科医師会会長に対する感謝状の贈呈



森戸光彦大会長から藤島一郎先生への感謝状の贈呈

## ●関西支部学術大会

平成 23 年度（社）日本補綴歯科学会関西支部総会ならびに学術大会が、平成 24 年 2 月 4 日（土）、5 日（日）の 2 日間、小正 裕大会長のもと兵庫県歯科医師会館で開催されました。

本学術大会では昨今の状況を踏まえ「在宅医療での補綴治療について」がメインテーマとして掲げられ、特別講演 1 題、一般口演 25 題および専門医申請ケースプレゼンテーション 7 題もの発表があり、また参加者 362 名と大変盛んな学術大会となりました。

特別講演には日本歯科大学歯学部摂食機能療法学講座植田耕一郎教授をお招きし、「在宅診療における補綴治療を考える」をテーマに臨床面だけではなく、在宅診療に必要な理念についても熱く語っていただきました。

併催された生涯学習公開セミナー「在宅医療における口腔リハビリテーション」では、コーディネーターに大阪大学歯学部歯科補綴学第二教室小野高裕准教授、シンポジストとして大阪大学臨床講師小谷泰子先生と大阪歯科大学非常勤講師大槻榮人先生をお招きし、それぞれのお立場から「在宅歯科診療の実際」、「歯科と摂食・嚥下障害～食医とは」という内容でご講演いただき、さらに小野高裕先生には嚥下補助装置についての最新の治療法についてもご教授いただきました。今、医療界が早急に求められている在宅医療の充実について、口腔リハビリテーションを key word に多方面の切り口から、その問題点や今後の可能性について活発な討議が行われ大変有意義な学術大会でありました。（大歯大 渋谷友美）



特別講演の植田耕一郎教授と小正 裕大会長



会場風景



生涯学習公開セミナー





## Interview

### 小川隆広 UCLA 歯学部終身教授に米国補綴学会最高学術賞

米国補綴学会 (American College of Prosthodontists; ACP) は、2011年の最高学術賞 (Clinician/Researcher Award of Distinction) を、日本補綴歯科学会の会員であり、UCLA 歯学部の終身教授である、小川隆広先生に授与することを決定した。同氏は、11月4日、アリゾナで行われる授賞式でその栄に浴した。今回、小川先生にこの受賞の詳細についてインタビューした。

#### —どのような賞ですか？

この賞は、臨床家、科学者を問わず、世界の歯科補綴の分野においてもっとも大きな貢献をした人材に贈られる生涯賞で、該当者がいない年もあり、補綴分野で最も権威のある賞の一つとされています。歴代では歯科の歴史に名を残す受賞者がならび、最近では、ACP や IADR インプラントグループの会長を務めた Lyndon Cooper 氏、前 AO の会長で、現在 JOMI のエディターである Steven Eckert 氏などが受賞しています。彼らと肩を並べる賞をいただけたことはこのうえない喜びであり、UCLA のチームのみんなと一緒に得ることができた榮譽として誇りに思います。また、ACP の同僚たちは、「渡米わずか13年足らずで、しかも、ACP 会員歴がわずか1年でこの栄冠を得たことは、歴史上特筆すべきことだ」と称賛の言葉を多くいただきました。

#### —受賞の理由はどんなものですか？

これは ACP が世界に発信したプレスリリースにも書かれています。要約すると以下ようになります。「小川隆広氏は、インプラントの能力を飛躍的に向上させる光機能化技術の発明・開発者であり、インパクトファクターにして350を超える120本以上の原著論文に代表される、インプラント科学、補綴臨床、生体材料、骨生物学に関する卓越した質と量の学術功績は賞賛に値する。またこの光機能化は、近い将来、歯科と整形外科医療の分野で大きな技術革新をもたらすことが期待されている」さらには、私のこれまでの研究活動や学術活動に関する功績も大きく評価されたようです。「同氏は、IADR 国際歯科研究学会補綴グループの会長、ACP の



ACP 会長の Jonathan P. Wiens 氏より、最高学術賞のブラックを受け取る。11月4日アリゾナ州スコットデールにて

学術担当などを歴任。昨年の AO 主催インプラントサミットでは ACP 代表、ナノテクノロジーエキスパートを務めている。昨年、IADR より最高の研究題材に対して贈られる William J. Gies Award を受賞している」

#### —光機能化とはどのようなものですか？

光機能化とは、システムの違いを問わず、インプラントの骨結合性能を飛躍的にあげる技術で、今、世界で脚光を浴びています。学術的にも、光機能化は、歯科を越えて一般サイエンスの教科書までも書き換え、EU の教育シラバスに必須教育事項として採用されています。日本でも、この技術は、現在まで、10カ月の短期間の間に、アクティブなインプラントロジスト5%に導入されました。インプラント医療になくってはならない技術として普及しており、まさに世界標準化の道をたどっています。詳しくは、「光機能化バイオマテリアル研究会」のウェブサイトをご覧ください。とよいと思います。

<http://hikarikinou.officialwebsite.jp/>

また、YouTube にて「光機能化」小川隆広 で検索すると UCLA での講義風景のビデオが見られます。

<http://www.youtube.com/watch?v=qArGIYS423I>

さらに、歯科総合情報サイト DentWave にも無料講義がアップされています。

<https://www.dentwave.com/member/index.html>

よろしかったらご覧ください。  
(上記の URL は 2012 年 4 月現在のものです)

#### ―若手のドクターにおくる言葉をお願いします―

45 歳になる私の可能性より、若いみなさんの可能性はもっと大きい。できなかった形成や抜歯ができるようになるように、できないことはやがて叶う。皆と共有できる何かを創造してほしい。技術、道具、薬、知見、教育・学術行政、学会など、なんでもいい。そうすれば必然的に、日本の歯科は新生します。

このほか、ACP とはどんな学会なのか？日米の学会の違いは？など多くの興味あるご説明をいただいた。ぜひ、次の機会に紹介したい。UCLA は世界で常に 3~5 位にランクされる歯学部だそうだ。その名門校の終身教授になるまでの道のりも険しく、想像を絶するご苦労があったと思うが、このような世界的に傑出された人材のみが手にする賞をいくつも受賞されている小川先生は、日本補綴歯科学会の誇りと言わざるを得ないだろう。

(広報・NL 委員 月村直樹)



#### 【投稿募集】

*Letter for Members* では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、社団法人日本補綴歯科学会事務局 (jpr-edit 01@max.odn.ne.jp) まで、メールにてお寄せください。